

小明見の神楽舞（獅子舞）交流会

富士吉田市立明見中学校

地域の伝統文化に触れる交流体験

全校での交流会

1. 伝統文化について

小明見神楽舞保存会に継承されている「こあすみのがくらまい（ししまい）」は、無形民俗文化財として、地域のお祭りなどで披露される大切な文化となっている。

宝暦12年（1762）に小明見地区の若者（丸組・下宿組）によって始められ、その後、文政10年（1827）に引廻しの神楽堂が両組若者によって造られ、今に受け継がれている。小明見浅間神社の4月の例大祭には、境内で舞を奉納し、神輿の地区内巡幸にその先導を務め、神幸の道筋と辻々の祈願所で潔めの舞を舞う。

昭和48年より無形民俗文化財と指定され、現在に至る。



2. 内容

- ① 神楽舞についての説明とこれまでの経緯を講話形式で聞く。活動の様子や、舞の内容などについても学習する。
- ② 演舞（こあすみのがくらまい）

3. 成果と課題

あまり鑑賞する機会がない地域の伝統文化を、短縮形ではあるが生で見られることが、生徒たちにとっては新鮮な学びの場となった。

地域伝統の良さや偉大さを知り、自分の地域を尊重する気持ちが表れた。

